

令和6年度老人保健健康増進等事業

「訪問系や通所系サービスにおける介護ロボット・ICT等のテクノロジー活用及び介護現場におけるAI技術の活用などを通じた生産性向上の取組の実態調査研究事業」  
報告書

株式会社 三菱総合研究所

第6回全世代型社会保障構築本部（令和4年12月23日開催）において取りまとめられた「介護職員の働く環境改善に向けたパッケージ」において、在宅介護における介護ロボット・ICT等テクノロジーの導入・活用について、介護報酬などでの評価のあり方について検討を行うこととされているが、例えば、見守り機器を活用し利用者の状態把握を行うサービスなどの介護ロボット等を活用した生産性向上の取組状況やその効果については施設サービスでの調査・実証に留まっている。

また、介護分野におけるテクノロジーの活用において、先進的な取組の1つとして、AI技術の活用があげられるが、開発状況や活用の実態、活用する際の留意点などの情報の把握については限定的である。

本事業では検討委員会を設置し、有識者の意見を踏まえながら、アンケート調査やヒアリング調査等により、訪問系や通所系サービスにおける介護事業者や自治体、企業等のテクノロジー等を活用した生産性向上の取組状況を把握した。在宅介護における今後の介護ロボット・ICT等のテクノロジー活用のあり方について検討を行うことを目的とした。

はじめに、文献調査として、以下資料の検索により、在宅介護における活用実態を整理し、更に文献調査の結果を踏まえ、効果的な活用事例の横展開が期待できると考えられる自治体や企業等の取組を整理した。

次に、効果的な活用事例の横展開が期待できると考えられる自治体や企業等を対象にヒアリング調査を実施し、在宅介護におけるAI・介護ロボット・ICT等テクノロジーの導入・活用に向けた準備、実際の取組、課題となる点や工夫している取組等、他自治体や介護事業者の参考となる事例として整理した。ヒアリング調査では、自治体2件、企業8件を対象とした。

さらに、訪問介護、通所介護等、居宅介護サービス事業所を対象としたアンケート調査を実施し、介護ロボット・ICT等テクノロジーの導入・活用の実態や、在宅介護の現場で必要と感じるテクノロジー等のニーズを把握することを目的としてアンケート調査を実施した。アンケート調査の回収率は、訪問系サービス調査で22.7%、通所系サービス調査で24.4%であった。また、より具体的な情報収集を目的とし、訪問系サービス事業所、通所系サービス事業所計10件にヒアリング調査を実施した。

アンケート調査及びヒアリング調査結果から、在宅での活用が期待されるテクノロジーの普及促進に向けてテクノロジー導入の期待や活用方針と課題等の整理を行った。そのうえで、2040年に向けてテクノロジー活用の在り方や在宅におけるケアの在り方のイメージを取りまとめた。